



夕 (刊) 部 二 十 五 號 行 一 四 〇 號 廣 告 所 廿 三 號 科 指 定 廿 三 號 刊 行 兼 編 輯 人 印 刷 人 平 谷 政 立 所 行 丁 日 五 三 番 地 所 會 川 海 報 社

改革概論(七) 大内民恵

第五章 中學校 前章に於て中學校の一般に關する評論を試みましたがこの章では中學校の各校について所見を述べて見やうと思ひます

十五名の定員に 世名の立候補か 家族の反對で長氏引退か 平は相當の混戦地

平町家調委員選舉は無競争以上の如く馬目玉彌氏の協歩乱れ大休十八名の立候補に對峙する吉田寅之馬を見る模様で尙ほ長々町助氏の紺屋町協定不調の

某元文部省 高等官の 若書中に「師範學校生徒に給費を與へて獎勵することについては世間に相當の異論を唱へる人がある、其理由は之が爲に生徒一般の氣風を卑屈にし、而從腹非の人物を養成するからだと云ふにある、一應尤もな説のやうであるが今日の學校教育の待遇を以てしては到底此の制度に依るにあらざれば所要の員數を而も相當成績のよい者を

得難いことは過去の事實が明らかに之を示してゐるのである更に我が師範教育が型にはまつて居るとの非難の如きは私は全く同情のない

香の大部分が農家の出身であつた一事である(中略)なる建築物及び佛像に驚異現念二十圓を窃取せる外七

比較的純朴で流れ行の境内へ近づいて参りま署に發覺して五日午後逮捕

此農民階級の中から多數の教員が養成されたことが我が國教育の今日迄堅實な發達を示した原因があつて給費の有り無しは此點に於て論者の云ふ如き左まで大きな影響を與へて居ると思はれない

通信員の横領 石城郡小名濱町上明神町居住同郡湯本町生れ雜誌通信員立花美好(三)は去月十六日湯本町辰の口長岡義守から同町渡邊長作に對する運送賃金二百八十八圓の請求を依託され去二日半額にまけて受取つた百四十四圓を懐かに湯本、小名濱、平町等を遊興費消し平署に取押

若者の盗み 平町宇新川町館屋吉田三郎方同居東白川郡原村生れ木内房吉(三)は去四日午後三時半頃石城郡内郷村の御年紀念運動會の朝今年四年

前借小僧 石城郡内郷村字峰の根前川覺は長男(二)を本年春前借三十圓で埼玉縣北足立郡川口町七八六番類雜貨店秋元勝治方に奉公させたが去月六日に逃走された主人は八方捜査の末自宅に居るを發見し伴戻したが同月十一日また逃走したので心當りを探し見たが斯んで自宅にも來ぬと云はれ居るも覺の様子に不審が多

逃走 石城郡内郷村字峰の根前川覺は長男(二)を本年春前借三十圓で埼玉縣北足立郡川口町七八六番類雜貨店秋元勝治方に奉公させたが去月六日に逃走された主人は八方捜査の末自宅に居るを發見し伴戻したが同月十一日また逃走したので心當りを探し見たが斯んで自宅にも來ぬと云はれ居るも覺の様子に不審が多

何なる かなる まいか 昭和五年五月八日 福島縣石城郡平町古銀治町

水野虎三 外親戚一同郎

農經營 橋本農林技手 米價が安い稲作り程損のものはないと云ふ論者もあるが、然し既に出來て居る處の而も大反別の水田を何とするか 選根か結茎を作つて稲を全然作らぬ方法もある

なる伴に小使錢の一圓も手を出して問題でも起して持つて行つたらよからうと思ふのか放任して置く云ふと、あぶないから廿錢のい處置から日頃ます盗難者を増加させてゐるは持たぬと云つて出て行つた其夕歸つての語に今日誰が靴を盗まれて誰か一層困つた事だと思ふ、特圓ばかり在中する財布をとに國民道徳の養成に努められた又賞品二回分をぬすられたものもあると云ふ斯うした事は運動會の其日のみではない毎日常事として續出してゐる警中の年中鬼事と聞いて誰か驚かぬものがあらうか▲盗む生徒の悪いことは勿論だが下手に(凡平生生投)

二男峯雄葬送の際に遠路の處 態々御會葬被成下且つ御鄭重なる 香奠を賜はり御厚志の段奉深謝候 儀以紙上御禮申上候 昭和五年五月八日 福島縣石城郡平町古銀治町

水野虎三 外親戚一同郎

農經營 橋本農林技手 米價が安い稲作り程損のものはないと云ふ論者もあるが、然し既に出來て居る處の而も大反別の水田を何とするか 選根か結茎を作つて稲を全然作らぬ方法もある

若者の盗み 平町宇新川町館屋吉田三郎方同居東白川郡原村生れ木内房吉(三)は去四日午後三時半頃石城郡内郷村の御年紀念運動會の朝今年四年

前借小僧 石城郡内郷村字峰の根前川覺は長男(二)を本年春前借三十圓で埼玉縣北足立郡川口町七八六番類雜貨店秋元勝治方に奉公させたが去月六日に逃走された主人は八方捜査の末自宅に居るを發見し伴戻したが同月十一日また逃走したので心當りを探し見たが斯んで自宅にも來ぬと云はれ居るも覺の様子に不審が多

逃走 石城郡内郷村字峰の根前川覺は長男(二)を本年春前借三十圓で埼玉縣北足立郡川口町七八六番類雜貨店秋元勝治方に奉公させたが去月六日に逃走された主人は八方捜査の末自宅に居るを發見し伴戻したが同月十一日また逃走したので心當りを探し見たが斯んで自宅にも來ぬと云はれ居るも覺の様子に不審が多

何なる かなる まいか 昭和五年五月八日 福島縣石城郡平町古銀治町

水野虎三 外親戚一同郎

農經營 橋本農林技手 米價が安い稲作り程損のものはないと云ふ論者もあるが、然し既に出來て居る處の而も大反別の水田を何とするか 選根か結茎を作つて稲を全然作らぬ方法もある



俳句に就て (一)

満壽莊主人

◎俳句はさうして作つたらよいかと聞く人がある僕はそれに答へる言葉はきまつてゐる一見たまに聞えたまふ感ぜたまふを幸直に言ひ現はせばよい」と言ふのである

◎だが見たまに聞えたまふを云ひ現はすにも美を放れてはならない丁度話しをするのにも話上手と下手とある如く聞かした事を表現して相手に美感をおこさせる様にせなければならぬ

◎だから俳句を作るには其の表現しやうとする事物をくどく説明する様なやり方はいかぬ説明なしに對手にはアと感ぜさせる様でなければならぬ

◎又他人の句を解釋するにも無暗とせんさく立してアのこのうのさ智的解釋を試みやうとすると要領を得なくなる

◎俳句は作るにしても解くにしても智識や學問を應用して理窟でこね上げる事は最も厭ふ處で只端的に十文字を眼にし耳にすると同時にびつたりと或る感じを起し起される様にせなくてはならぬのである

◎昔美濃の國の俳師藤原之坊と云ふ人が北越地方を旅行して加賀國松任の宿に泊つた折のこと其旅籠屋へ訪ねて来た十六、七のうら若い少女があつた

安價に 迅速に 叮嚀に 親切に

福島縣石城郡平町 遠藤活版所

電話七四三番

諸毒下シの天妙藥

安流丸

特約 山野 徳 益 局

創業廣告

今般時代の趨勢に鑑み合資會社高橋商會を創業いたし左記營業種目に依り親切第一主義を以て營業致す事と相成り候間何卒御利用御用命の程御願ひ申上候

營業 燃料、木材
種目 金融、仲立

平町白銀町 合資會社 高橋商會

代表者 高橋 龜松

電話六三八番

洋服は 模範 裁縫

平町驛前 電話八〇七番

高島屋



御料面 白く お安く

尼忠

平町驛前 電話八六五番

破格の勉強で 歡迎される

静岡本場 六角園 特約 小笠原茶 香深い新茶が着きました

半谷 商店

平町若松病院隣

ガソリン モビール油 株式会社 日本石油 株式会社

特約販賣 關内商店 油問屋

支店 山形市 支店 郡山市 支店 平町驛前

支店 本町 支店 本町

出張所 平町驛前 郵便局前

朝夏に贈はしいお名ものは

モリタヤ

平町驛前 電話三五三番

愛國産 信用

時計は信用ある精工舎 製品を

特約店 大谷時計病院

平町三丁目 電話十九番

磐城 平町

玉章堂

三丁目元郡役所通

高級車

グラハムページ

たしましたい車入がンダセ型新 すまひ願乗試御非是

貸切自動車の 用命は 昭利

高級車で 乗心地は 昭利

平町驛前 電話 三四三番

表代城磐 酒銘

味経 美 濟 味 美

油 醬 味のマヤ

社会名合崎山 電話十番

豆と晒あん

北海道のよいお豆 純小豆製のよい晒あん

お電話なり下されば多少に拘らずお届申上げます

田巻隆一商店

平町紺屋町十三番 電話九〇八

初夏 サロンの新装

樽詰生ビール並に タンク入ソーダ水

平町のソーダファンテン

コップ一杯 十五錢

ソーダ水 各種 十五錢

ごうぞ御散歩がてらに御来店を 評判の 平町田町

電話三五三番